



東北育種場の苗畑管理

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場 遺伝資源管理課

飯野 貴美子

1 はじめに

東北育種場では、各県から提出される要望をもとに特定母樹やエリートツリー等のスギ、カラマツ、抵抗性マツの原種を穂木・さし木苗・つぎ木苗で配布するための苗木管理をしています。今回は当場の苗畑で行っている苗木の育成管理についてご紹介します。

2 苗畑管理1年の流れ

施肥(基肥)

苗畑の土づくりから始まります。雪が解けて地面が見え始める頃、土壌の状態を見て決めた基肥を散布します。

まきつけ・床替

4月、苗畑がいよいよ本格的に始動します。まき付け床にはスギ、クロマツ、カラマツの3樹種を播種します。また、前年の秋に仮植を行なった1年目と2年目の苗木を苗床に戻す作業(床替)を行います。

雑草とり

外作業がしやすいと感じ始める5月、苗畑では雑草がしっかりと生長してきます。雑草は5~9月にかけてハコベ、ナズナ、スベリヒユ、カラスビシャクの順に生え変わります。雑草は苗木よりも生長が早く苗木の生長を阻害する恐れがあるため、その種が落ちる前に雑草を取り除きます。また、雑草の種類によって根の長さや薬剤による処理方法が異なるため、除草方法を見極めることが必要です。

間引き

間引きは苗木1つ1つが生長するための空間を確保するために行います。東北育種場では、まきつけ床に方形枠を設置し、本数密度が均一になるように年に3回本数調整を行います(写真1)。



写真1. 間引きを行っている様子

病虫害対策

病虫害が発生する前に薬剤散布を行うことが必要です。そのためにも、苗木に変化がないか観察することが重要です。早朝、気温



が高くなる前に苗畑に行くとヨトウムシが地面からのそのそ出てくる様子が見られます。

根切り

スギ、カラマツの2樹種で床替した苗の根切りを1年に3回(7~8月、9月、10月)行います。根切りとは、苗木の根を切る作業です。①細根の発生、②冬の寒さに備えて苗木の生長を抑制することを目的に行います。

施肥(追肥)

山に植える苗木の規格(山行き苗)の数値を目標に苗木の生長に合わせて肥料を散布し、苗木の生長をコントロールします。

仮植と仮植の下準備

秋、ついに苗畑の店じまいです。苗畑では10月下旬の雪が降る前に仮植を行います。仮植とは冬の寒さから苗木を守るために掘り取り、仮植床に移動させて寝かせる作業です。

また、仮植を行う前には雪腐れを防止するため、苗木に薬剤を散布します。

施肥(基肥)

来年の春にまた良い苗木が作れるように完熟した堆肥をたっぷり入れて寝かせ土に馴染ませます。

3 工夫点

よしずを用いてつぎ木苗の養苗を行う

東北育種場では、つぎ木苗の養苗を行う際、よしずを用います(写真2)。養苗によしずを用いる理由は①直射日光から苗木を保護するため、②風通しを良くし蒸れを防止するため



写真2. カラマツを養苗している様子

です。よしずはつぎ木苗の活着が確認されたのち除去します。

4 おわりに

私は、苗畑管理を初めて3年目になります。苗畑管理は年によって気象条件が異なるため、柔軟に対応することが必要です。柔軟に対応することは難しいですが、毎日、愚直に苗木を観察し続けることが大切なのではないかと感じています。